

支部この一年

昭和63年4月25日

顧問、相談役、正副支部長、幹事長らが出席し幹部役員会を開き支部運営の基本方針を協議

昭和63年6月4日

経済学部後援会及び柑芦会理事会が大阪支部で開かれ支部長が出席

昭和63年6月19日

柑芦松下記念会館に於て、和同窓会設立代表者会議があり幹事長が出席

昭和63年8月20日

正副幹事長会議を開き、総会開催方針を検討

昭和63年8月24日

41名が出席し幹事会が開催され、総会準備並に決算案を審議する。

昭和63年9月24日

支部長他支部選出役員が出席して大学で、和同窓会設立総会が開かれる。

が大学で開かれ支部長が出席

昭和63年10月15日

大学に於て支部総会並に懇親パーティーが、100余名の出席者のもとで開催された。

昭和63年11月19日

支部長他支部選出役員が出席して大学で、和同窓会設立総会が開かれる。



支部総会並びに懇親パーティー



自昭和63年4月1日
至平成元年3月31日

支部役員

役職	氏名	卒業期	勤務先等
顧問	雑賀豊太郎	高7	(株)雑賀豊吉商店社長
支部長	山中 静	高20	監査法人朝日新和会計社 和歌山事務所所長
副支部長	中井三千穂	大1	和歌山商工会議所専務理事
副支部長	西 達司	大1	紀陽銀行専務取締役
副支部長	辻本 利夫	短1	前市役所企画部長
幹事長	南村桂太郎	工1機	尾高ゴム工業(株)取締役社長
副幹事長	岡本 昭三	工2電	紀伊三洋(株)社長
副幹事長	清水 正義	大2	清水不動産鑑定士・税理士 事務所所長
副幹事長	服部 正彦	大2	服部楽器店(株)専務取締役
相談役	田村新兵衛	高1	(有)田村新不動産代表取締役
相談役	中井 英俊	高1	
相談役	山東 永夫	高2	紀陽銀行相談役
監事	宮本 義之	高16	信和ニット(株)専務取締役
監事	土山 忠治	高20	公認会計士・税理士

外、常任幹事46名、幹事206名

収支計算書

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
前年度繰越金	1,423,554	普通預金 紀陽本店	総会費	588,635	S.63.10.15 於和大学舎
会員年会費	1,122,000	3,000円×374名	紀南地区懇親会費	309,000	H.1.3.26 於白浜「朝日」
総会会費	246,000	3,000円×82名	事務所費	360,000	30,000×12月
紀南地区懇親会会費	99,000	3,000円×33名	通信費	240,585	総会通信費、電話料外
後援会運営補助金	600,000		総会用文書、封筒印刷費外	190,050	
「柑芦」広告手数料	62,400		役員会3回、幹事会1回	141,920	
預金利息	3,461	普通預金(紀陽銀行)	総会準備委員会4回	113,210	
雑収入	75,506	総会祝金 外	慶弔費	15,000	大阪支部総会祝金外
			雑次年度繰越金	37,140	各支部寄付、大学促進期成会負担金外
合計	3,631,921		合計	1,636,381	

柑芦会和歌山支部収支予算案

自平成元年4月1日
至平成2年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
前年度繰越金	1,636,381	紀陽銀行本店 普通預金	総会費	350,000	H.1.10.21 於大和経済学部
会員年会費	1,200,000	3,000円×400名	支部ニュース発行費	300,000	支部ニュース100円×3,000部
後援会運営補助金	600,000	事務所費ほか運営補助金	事務所費	360,000	30,000×12月
「柑芦」広告手数料	60,000		通信費	350,000	支部ニュース外送料、電話料
預金利息	3,000		什器備品費	30,000	
雑収入	10,000	総会祝金外	印刷費	200,000	総会用文書、封筒印刷費外
			消耗品費	10,000	総会受付用事務用品費
			水道光熱費	10,000	
			会議費	150,000	常任幹事会費、役員会費
			委員会費	150,000	総務委員会外
			慶弔費	50,000	大阪支部総会祝金外
			雑次年度繰越金	100,000	
合計	3,509,381		合計	1,449,381	

「高商踊り」顚末記



「黒人踊り」は、高商から大学に伝わる祭の名物行事の一つとして、長年の間、学生・同窓生や一部市民に親しまれて来たが、昨年に至って遂にその姿を消すことになった。

柑芦会員の哀惜と不審の声に於て、ここに顚末の一端をお伝えしよう。

廃止が決定されたのは昭和63年6月、自治の誇り高い旧高松学舎の廊下で、年に一度、近隣の市民も招いて、芝居や仮装行列に興じ、(ジンジロゲーや、ジンジロゲー)と唄い踊ったのが先輩諸兄の胸の内は、もはや知るよしもないが、あの黒く逞しい勇士達が時の流れとともにキャンパスを

昭和初年、自治の誇り高い旧高松学舎の廊下で、年に一度、近隣の市民も招いて、芝居や仮装行列に興じ、(ジンジロゲーや、ジンジロゲー)と唄い踊ったのが先輩諸兄の胸の内は、もはや知るよしもないが、あの黒く逞しい勇士達が時の流れとともにキャンパスを

昭和63年6月、自治の誇り高い旧高松学舎の廊下で、年に一度、近隣の市民も招いて、芝居や仮装行列に興じ、(ジンジロゲーや、ジンジロゲー)と唄い踊ったのが先輩諸兄の胸の内は、もはや知るよしもないが、あの黒く逞しい勇士達が時の流れとともにキャンパスを

和歌山支部の歴史

柑芦会が、和歌山高商同窓会として誕生したのは、第一回卒業生が出た大正15年、当時の校長、岡本一郎氏が、初代会長に就任。

初めのうち、支部組織は確立されておらず、東京、大阪、京都、和歌山など、会員の多い地域に、幹事、のちに理事と呼ぶ世話役が

柑芦会が、和歌山高商同窓会として誕生したのは、第一回卒業生が出た大正15年、当時の校長、岡本一郎氏が、初代会長に就任。

初めのうち、支部組織は確立されておらず、東京、大阪、京都、和歌山など、会員の多い地域に、幹事、のちに理事と呼ぶ世話役が

支部の会員、三千七百人

平成元年8月15日現在で、柑芦会本部がまとめた会員総数は、一万四千九百九十二人、このうち、和歌山支部は、26%に当たる三千七百四十八人を占めている。その内訳は、高商百九十四人、経専百五十五人、工専百七十八人、大学千二百九十四人、短大千九百四十二人、大学院二人。

筒井均学部長のご経歴

昭和15年9月 新宮市に生れる

39年3月 大阪大学文学部卒業

41年3月 同大学院修士課程終了

41年4月 大阪大学文学部助手

43年4月 和歌山大学経済学部助手

59年4月 同教授

62年4月 同大学学生部長

平成元年4月 同大学経済学部長

現在に至る

多数の参加をお待ちします。

会費(三千元)の納入をお願い

支部活動を活性化し、同窓生の親睦、情報交換を進め、支部の運営費にあてるため、三年前から年会費制をとりました。なにとぞ、支部会費(年三〇〇〇円)納入にご協力下さい。

回)に、バトンタッチされ

編集後記

初めて、年に二、三回、四回建て発行できれば……みんなで話合いました。

予算、手間の点で、いまのところ、ムリ。第一号、お座なりなものになりました。

寄稿をお願いしたみなさんに改めてお礼を申し上げます。

編集委員

浜本 幸男(経専3回)

南村桂太郎(工専1回)

小池布紗雄(大学11回)

藤井 武(同13回)